

上山草人年譜稿(五)

——谷崎潤一郎との交友を中心に——

細江光

(お断りと追加)

本稿は、「甲南女子大学文学部研究紀要」第40号(平成十六年三月刊)に掲載した「上山草人年譜稿(四)——谷崎潤一郎との交友を中心に」の続篇である。

浦路のハリウッド映画出演の記録で、前回入れ忘れた分があったので、追加する。

「上海特急(Shanghai Express)」(1932) Mrs. Sojin 名^不 (uncredited) Woman (Internet Movie Database による)。日本では昭和七年三月十七日に封切られた(『日本映画作品大鑑』による)。

「Navy Wife」(1935) Mrs. Sojin 名^不 (uncredited) (Internet Movie Database による)。日本では公開されなかったらしい。

以下が、前回の続稿である。

◆昭和十一年◆(1936) 五十三歳

★高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、松五郎は、神戸オリエンタル・ホテルで、松子の手を噛み付いて、何針も縫う大怪我をさせた事がある。昭和十一年だろう。

★この年、平八は、米国共産党に入党(『解放のいしずえ(新版)』)。

★平八はロスで詩集『あしあと』を刊行。伊丹明(山崎豊子『二つの祖国』主人公のモデル)と北米詩人協会を創立。雑誌「収穫」を発行。ペンネームは三田エド、または三田穢土。浦路もシンパとして協力した(工藤美代子『聖林のモンゴル王子』坂井米夫『私の遺書』『ゾルゲ事件と宮城与徳』)。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、平八は、スタインベックとも付き合いがあった【スタインベックは、カリフォルニア州サリーナス出身で、前期の作

品の多くはカリフォルニアを舞台にし、代表作『怒りの葡萄』(1939)では、資本家たちと、そのために土地を追われてカリフォルニアに移住した貧窮農民集団との軋轢闘争を描いているので、平八と通じ合う所があったのであろう】。ヨルカ化粧品のPR雑誌「とつぷ」(S11/1-12/1)に上山平八のハリウッド通信が連載された(清水俊二『映画字幕五十年』)。

草人宅で谷崎は福田蘭童と一緒にあった(S11/2「中央公論」座談会「新春懇談会」)。

※鶴見の草人宅に潤一郎が松子と『源氏物語』を書きに来ていて、一時、潤一郎だけが大阪へ戻っている間に、福田蘭童が訪ねて来て、草人から松子に紹介されたのが、松子との初対面であり、その後、潤一郎にも紹介された(『小説新潮』1955/7福田蘭童「谷崎さんと生麴」)。

※福田蘭童の『蘭童つり自伝』(S41刊)「なつかしき釣友」の「上山草人と佐藤惣之助」の項でも、触れられている。

午前11時、松竹蒲田撮影所に大型遊覧バス15台、円タク15台が集まり、草人ら俳優達、大道具の入夫・飯炊きの婆さんも一緒に約400人が出発。午後0時半、大船の新スタジオに乗り込み、開所式を挙げた(『朝日新聞』17日夕刊)。

松竹大船作品「若旦那・百万石」封切り。監督清水宏。祖父・玄左衛門役で草人が出演。清水監督の若旦那シリーズの一つ(『松竹七十年史』)。

竹三郎は、一年遅れで東京府立第七中学校を卒業(3・22三田照子さんの細江宛私信)。

草人は「赤西蠣太」の撮影を行う(『読売新聞』S11・7・7記事)。
竹三郎は主婦の友社代理部に勤め始める(三田照子『ハリウッドの怪優』ただし昭和十三年とする)。

5・6

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、草人が探して来た就職先。夜中、三田貞(＝上山草人)内より松子宛谷崎書簡。先日のお三百円稿料は既に鶴見にて脱稿【源氏物語】? 『猫と庄造と二人のをんな』? 返済。

※【これ以降?】草人は直子に命じて松子宛に「松五郎が歩き回るようになり、家が狭くなったからもう来ないように」と書留の手紙を送らせ、昭和二十五年初夏まで、谷崎と絶交した(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。

6

竹三郎(十八歳?)は、肺結核のため、主婦の友社を辞職し、埼玉県の療養所に入る。貯金を使い果たして困っていた所へ、姉の落子が来て、兵庫県明石市に連れ帰った。その後、落子が浦路に竹三郎の病状を知らせた所、浦路から一ヶ月おきに千円が送られて来たので、落子は竹三郎を舞子病院に入院させた。しかし、竹三郎の看護に熱中していた落子は離縁される。そこで、落子は病院近くのアパートに住んで、アパートの掃除婦となった(三田照子「ハリウッドの怪優」ただし昭和十四年とする)。

18

日活・片岡千恵蔵プロダクション提携作品、伊丹万作監督映画「赤西蠣太」封切り。草人は按摩安甲役で好演(田中純一郎『日本映画発達史』『日本映画俳優全集・男優編』)【盲人役は、ハリウッド流の大袈裟な演技が合っているからだろう】。

22

雨宮庸蔵宛谷崎書簡。二十四日夜出発、二十五日朝着京、月中は滞京の予定。宿は鶴見(＝上山草人)にあらず【草人に絶交されたためであろうか?】。

7・6

松竹キネマ俳優上山草人は、「赤西蠣太」出演の契約に当たって、上山草人の名は、映画およびピラなどの宣伝の際には、特別出演者中の筆頭に、特別出演または援助出演と肩書きを付して氏名を記載すべきことを約束したにもかかわらず、片岡千恵蔵が、約束を無視し、また試写会の通知すらしなかった、として、九新聞紙への謝罪広告掲載と慰謝料五千元を請求する訴訟を起こした(『読売新聞』「東京朝日新聞」7・7)(工藤美代子『聖林のモンゴル王子』)。

※ただし、高橋梅代さん所蔵新聞切り抜きによれば、後に草人と千恵蔵が仲直りした事が、新聞に大きく報道されている。記事の中に、千恵蔵プロダクションが既に解散された(昭和十二年五月)と出ているのと、正月休みのことと出ている点から、昭和十三年か十四年頃の正月の記事と見られる。その記事によれば、もともと松竹では「赤西蠣太」を松竹系で上映するつもりで草人を貸したのに、途中から千恵蔵が日活との提携を決め、日活側では、ポスターや新聞広告に松竹の草人の名前を小さくしか載せなかった為、草人も憤慨し、松竹も後押しして、訴訟沙汰

になった。しかし、その後、日活と松竹が提携することになった為、訴訟はうやむやになった。草人と千恵蔵の間には、もともと個人的には何のわだかまりもなかったが、元近代劇協会の三村伸太郎・山本礼三郎が間に入って、二人の会談の席が設けられた、と報じられている。

夕刊「読売新聞」記事「大当り珍優時代」に「珍顔の大御所」として草人がとりあげられている。「お琴と佐助」で琴の師匠を振られた時、総入れ歯を外して珍顔を見せたのが切っ掛けで、一躍珍顔の大御所になったと言う。

打出より佐藤春夫方鮎子宛谷崎葉書。草人作の歌「つの国の打出の里に住み乍ら打ち出す小槌なきぞ悲しき」を傑作として引用。

松竹大船撮影所建設記念映画「男性対女性」封切り。上山草人も岡倉彦馬役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「母を尋ねて」封切り。監督佐々木康。出演坪内美子・上山草人・市村美津子・南部耕作・高峰三枝子・三宅邦子(『松竹七十年史』)。

「読売新聞」に記事「雪洲、草人両氏から千円づつ、を恐喝」「暗桜団」主犯の罪状明るみへ」掲載。

松竹大船作品「人妻椿 前篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「人妻椿 後篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

「朝日新聞」夕刊5面に、衣笠貞之助監督が「大阪夏の陣」のために、陸軍の実弾演習の音を録音したという記事が出、草人の写真も添えられた。

「世界知識」の座談会「在外日本人珍談奇行座談会」に草人が参加。

◆昭和十二年◆(1937) 五十四歳

★この年、平八はSojin Jr.名で、ハリウッド映画「Wakiki Wedding」にBelboyの端役で出演した(Internet Movie Database)。

松竹大船作品「花嫁かるた」封切り。監督島津保次郎。出演上原謙・桑野通子・高杉早苗ら。草人は易者役で出演。大船特有の正月新婚もの(『松竹七十年史』)。

「話」の座談会「世界を股の色ざんげ「話」の会」に草人が参加。

夕刊「読売新聞」5面記事「年より役者」に突貫小僧が草人を年寄役者だと言ったというゴシップが出る【突貫小僧は青木富夫(1923-2004)が昭和4年に映

になった。しかし、その後、日活と松竹が提携することになった為、訴訟はうやむやになった。草人と千恵蔵の間には、もともと個人的には何のわだかまりもなかったが、元近代劇協会の三村伸太郎・山本礼三郎が間に入って、二人の会談の席が設けられた、と報じられている。

夕刊「読売新聞」記事「大当り珍優時代」に「珍顔の大御所」として草人がとりあげられている。「お琴と佐助」で琴の師匠を振られた時、総入れ歯を外して珍顔を見せたのが切っ掛けで、一躍珍顔の大御所になったと言う。

打出より佐藤春夫方鮎子宛谷崎葉書。草人作の歌「つの国の打出の里に住み乍ら打ち出す小槌なきぞ悲しき」を傑作として引用。

松竹大船撮影所建設記念映画「男性対女性」封切り。上山草人も岡倉彦馬役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「母を尋ねて」封切り。監督佐々木康。出演坪内美子・上山草人・市村美津子・南部耕作・高峰三枝子・三宅邦子(『松竹七十年史』)。

「読売新聞」に記事「雪洲、草人両氏から千円づつ、を恐喝」「暗桜団」主犯の罪状明るみへ」掲載。

松竹大船作品「人妻椿 前篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「人妻椿 後篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

「朝日新聞」夕刊5面に、衣笠貞之助監督が「大阪夏の陣」のために、陸軍の実弾演習の音を録音したという記事が出、草人の写真も添えられた。

「世界知識」の座談会「在外日本人珍談奇行座談会」に草人が参加。

◆昭和十二年◆(1937) 五十四歳

★この年、平八はSojin Jr.名で、ハリウッド映画「Wakiki Wedding」にBelboyの端役で出演した(Internet Movie Database)。

松竹大船作品「花嫁かるた」封切り。監督島津保次郎。出演上原謙・桑野通子・高杉早苗ら。草人は易者役で出演。大船特有の正月新婚もの(『松竹七十年史』)。

「話」の座談会「世界を股の色ざんげ「話」の会」に草人が参加。

夕刊「読売新聞」5面記事「年より役者」に突貫小僧が草人を年寄役者だと言ったというゴシップが出る【突貫小僧は青木富夫(1923-2004)が昭和4年に映

になった。しかし、その後、日活と松竹が提携することになった為、訴訟はうやむやになった。草人と千恵蔵の間には、もともと個人的には何のわだかまりもなかったが、元近代劇協会の三村伸太郎・山本礼三郎が間に入って、二人の会談の席が設けられた、と報じられている。

夕刊「読売新聞」記事「大当り珍優時代」に「珍顔の大御所」として草人がとりあげられている。「お琴と佐助」で琴の師匠を振られた時、総入れ歯を外して珍顔を見せたのが切っ掛けで、一躍珍顔の大御所になったと言う。

打出より佐藤春夫方鮎子宛谷崎葉書。草人作の歌「つの国の打出の里に住み乍ら打ち出す小槌なきぞ悲しき」を傑作として引用。

松竹大船撮影所建設記念映画「男性対女性」封切り。上山草人も岡倉彦馬役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「母を尋ねて」封切り。監督佐々木康。出演坪内美子・上山草人・市村美津子・南部耕作・高峰三枝子・三宅邦子(『松竹七十年史』)。

「読売新聞」に記事「雪洲、草人両氏から千円づつ、を恐喝」「暗桜団」主犯の罪状明るみへ」掲載。

松竹大船作品「人妻椿 前篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

松竹大船作品「人妻椿 後篇」封切り。草人は多門寺の和尚役で出演(日本映画データベース)。

「朝日新聞」夕刊5面に、衣笠貞之助監督が「大阪夏の陣」のために、陸軍の実弾演習の音を録音したという記事が出、草人の写真も添えられた。

「世界知識」の座談会「在外日本人珍談奇行座談会」に草人が参加。

25	松竹大船作品「恩愛二筋道」封切り。監督齋藤寅次郎。出演岡村文子・上山草人・小牧和子(『松竹七十年史』)。	1・5	◆昭和十三年◆(1938) 五十五歳
4・1	松竹下加茂作品「大阪夏の陣」封切り。草人は盤獄役で出演(日本映画データベース)。	2・11	★この年、浦路は Mrs. Sojin 名義、ハリウッド映画「Trade Winds」に Patroness という端役で出演した(Internet Movie Database)。日本では、昭和十五年五月八日に「貿易風」と題して公開された(『日本映画作品大鑑』)。
18	午後8時20分からラジオで「金色夜叉」を放送。草人は鰐淵直行役で出演(朝日新聞)朝刊16面		午後8時45分からラヂオ・コメデイ「家庭会議」に草人が父親役で出演(『読売新聞』朝刊10面)
6・10	松竹大船作品「金色夜叉」封切り。草人は鰐淵直行役で出演(日本映画データベース)。		田中栄三「新劇その昔」P35に和良店会の人たちとして、田中栄三・諸口十九・岩田祐吉・勝見庸太郎・田辺若男・川村花菱・森垣二郎・佐藤惣之助・上山草人のこの日付の写真掲載。
7・1	松竹下加茂作品「実録小笠原騒動」封切り。監督井上金太郎。出演小笠原章二郎・近衛敏明・上山草人・花房みどり・大島伯鶴(『松竹七十年史』)。	5・22	※田辺若男「舞台生活五十年 俳優」(春秋社)のクラブシアにも、「昭和13年2月11日わらだな会」と明記した写真あり。東京俳優学校同窓生の会で、川村花菱が主事と説明がある。
7	日中戦争勃発		※翌年と推定される高橋梅代さん所蔵新聞切り抜きから、藤沢浅二郎の俳優養成所卒業生の会と知れる。
14	松竹下加茂作品「元禄快拳余譚 土屋主税・落花の巻」封切り。監督大塚稔。草人は吉良上野介役で出演(『松竹七十年史』)【昭和七年にも吉良役だった】。	26	午後5時半から、早稲田大隈会館にて坪内逍遙博士を偲ぶ第三回逍遙祭が開催され、草人も出席した(『朝日新聞』23日朝刊)。
15	浅草帝国館で松竹百万弗ショウに、草人が西村小楽天・三宅邦子・小林十九二・飯田蝶子と出演(14日夕刊「読売新聞」4面広告)		午前10時から映画「人妻真珠」(新興キネマ東京)の最後のロケーションが、「読売新聞」主催・多摩川園の「戦捷つ、じ大会」会場で行なわれ、草人・逢染夢子らが撮影後、サイン会を行なった【26、27両日の「読売新聞」夕刊記事による。
8・13	松竹下加茂作品「元禄快拳余譚 土屋主税・雪解篇」封切り。草人は吉良上野介役で出演(『松竹七十年史』)。	6・12	「人妻真珠」の原作(戸川貞雄作)が「読売新聞」に連載されていたため。
12・12	日本軍の南京攻略に際して、南京在の米人保護のため、米国旗を掲げて南京上流6マイル地点に碇泊していた米砲艦パネー号を日本海軍航空隊が爆撃沈没させるという大事件が発生。同日、陸軍がイギリス艦「レディバード号」などを砲撃。日米日英関係は危機的な状態になり、近衛文麿首相が14日に英・米に陳謝した。日本では、パネー号弔慰金募集の運動が全国的に展開され、松竹大船の草人・田中絹代らスター6名が17日午後アメリカ大使館を訪れ、慰問金・慰問文を贈呈したことなどが、「朝日新聞」などで報じられた。	15	松竹・国光合作映画「国民の誓ひ」に草人が出演。ドイツ映画輸入業者の国光株式会社が行なっていた撮影技師とスキーヤーのリストを招き、松竹の野村監督と俳優が参加した。内容は日本のオリンピック出場選手養成のためにリストが来日する日独親善の物語(『松竹七十年史』草人を含む写真あり)。
25	松竹大船作品「沈黙の愛情」封切り。監督宗本英男。出演笠智衆・近衛敏明・奈良真養・坪内美子・水島亮太郎・上山草人(『松竹七十年史』)。	26	新興キネマ東京の「人妻真珠」封切り。草人は謙造役で出演。新派悲劇調メロドラマ(『新興キネマ』・「キネマ旬報」66・67)。
30	松竹大船作品「歌へ歓呼の春」封切り。草人は御隠居役で出演(日本映画データベース)。	7・11	朝日新聞社発行の「映画と演芸」を、創刊十五周年を期に「映画朝日」と改題し披露する「映画朝日の夕」が、この日午後6時から10時半まで満員盛況の日比谷公会堂で開かれ、徳川夢声司会のもと、松竹から草人ら、東宝・日活からもスターが多数出演した(『朝日新聞』27日朝刊)。

◆昭和十三年◆(1938) 五十五歳

★この年、浦路は Mrs. Sojin 名義、ハリウッド映画「Trade Winds」に Patroness という端役で出演した(Internet Movie Database)。日本では、昭和十五年五月八日に「貿易風」と題して公開された(『日本映画作品大鑑』)。

午後8時45分からラヂオ・コメデイ「家庭会議」に草人が父親役で出演(『読売新聞』朝刊10面)

田中栄三「新劇その昔」P35に和良店会の人たちとして、田中栄三・諸口十九・岩田祐吉・勝見庸太郎・田辺若男・川村花菱・森垣二郎・佐藤惣之助・上山草人のこの日付の写真掲載。

※田辺若男「舞台生活五十年 俳優」(春秋社)のクラブシアにも、「昭和13年2月11日わらだな会」と明記した写真あり。東京俳優学校同窓生の会で、川村花菱が主事と説明がある。

※翌年と推定される高橋梅代さん所蔵新聞切り抜きから、藤沢浅二郎の俳優養成所卒業生の会と知れる。

午後5時半から、早稲田大隈会館にて坪内逍遙博士を偲ぶ第三回逍遙祭が開催され、草人も出席した(『朝日新聞』23日朝刊)。

午前10時から映画「人妻真珠」(新興キネマ東京)の最後のロケーションが、「読売新聞」主催・多摩川園の「戦捷つ、じ大会」会場で行なわれ、草人・逢染夢子らが撮影後、サイン会を行なった【26、27両日の「読売新聞」夕刊記事による。

「人妻真珠」の原作(戸川貞雄作)が「読売新聞」に連載されていたため。

松竹・国光合作映画「国民の誓ひ」に草人が出演。ドイツ映画輸入業者の国光株式会社が行なっていた撮影技師とスキーヤーのリストを招き、松竹の野村監督と俳優が参加した。内容は日本のオリンピック出場選手養成のためにリストが来日する日独親善の物語(『松竹七十年史』草人を含む写真あり)。

新興キネマ東京の「人妻真珠」封切り。草人は謙造役で出演。新派悲劇調メロドラマ(『新興キネマ』・「キネマ旬報」66・67)。

朝日新聞社発行の「映画と演芸」を、創刊十五周年を期に「映画朝日」と改題し披露する「映画朝日の夕」が、この日午後6時から10時半まで満員盛況の日比谷公会堂で開かれ、徳川夢声司会のもと、松竹から草人ら、東宝・日活からもスターが多数出演した(『朝日新聞』27日朝刊)。

夜、伍長として応召する松竹大船のスター・佐野周二の壮行会がレインボー・グ

リルで行なわれ、草人・田中絹代・川崎弘子・高杉早苗らが出席した(12日「読

8・22	午後7時から数寄屋橋ニュー・トーキョウで、東宝の岡譲二の応召出征を送る会が開かれ、草人も出席した(「朝日新聞」23日朝刊)。	◆昭和十四年◆(1939) 五十六歳	★この年から、草人は新興キネマ専属になったと『日本映画俳優全集・男優編』にあるが、存疑。
23	夕刊「朝日新聞」3面に「敬遠された草人」と題する記事。「愛染かつら」(松竹大船)昭和13年9月15日封切り)撮影中の上原謙が田中絹代に「今年には厄年だ」と愚痴っている所に通り掛かった草人が、丁度、宗本監督作品「希望に立つ」の山寺の和尚役の衣装だったので、「丁度いい、ここで僕が厄払いをして上げましょう」と申し出たが、上原謙は「これ以上悪くなってはかえりません」と断ったというゴシップ【上山草人と上原謙は、昭和10年「永久の愛」、11年「男性対女性」「人妻椿」、12年「花嫁かるた」で共演している】。	2・8	新興キネマ東京の「喧嘩花盛り」封切り。草人が隠居谷村六兵衛役で出演。現代人情メロドラマ(「新興キネマ」・「キネマ旬報」671)。
25	松竹大船作品「希望に立つ」封切り。監督宗本英男。出演徳大寺伸・上山草人・葉山正雄・広瀬徹・水戸光子・三浦満子(「松竹七十年史」)。	11	(年代推定) 昨年・今年と紀元節に、藤沢浅二郎の俳優学校卒業生が三〇年ぶりに集まって懇談会を開いた。草人のほか、田中栄三・諸口悦久【諸口十九】・勝見庸太郎・佐藤惣之助・森垣二郎が日比谷山水楼に集まった(写真入り)。岩田祐吉・川村花菱・田辺若男は欠席(高橋梅代さん所蔵新聞切り抜き)。
秋	パラマウント映画の字幕スローパーを作るために、清水俊二が羅府新報に広告を出して、カード・ライターを募集した所、草人の息子平八が応募して来た。これがきっかけで、遊びに行き、平八が死ぬまで親しく付き合った。平八の夫人ちえは共産党員だった(清水俊二「映画字幕五十年」)。	28	昨年満十周年を迎えた演劇博物館が、記念事業として古今東西の劇文壇人の原稿・筆跡の収集を計画していることを伝え聞いた草人は、この日、坪内逍遙の命日を期して、鷗外逍遙の附箋付きの「マクベス」原稿を、演劇博物館に寄贈した(「朝日新聞」28日夕刊には草人の談話。「早稲田大学新聞」3月1日にも記事あり)。
10・27	新興キネマ東京の「貧しき者の幸福」封切り。草人が蜷屋中田作役で出演。現代風俗メロドラマ(「新興キネマ」)。	3・11	草人は腸捻転・腸閉塞・盲腸炎を併発して倒れる(高橋梅代さん所蔵新聞切り抜き「白亜塔」欄)。
11	「テアトロ」座談会 新劇三十五年史を語る」に草人が参加。	4・8	草人は蒲田病院に入院。大手術をした(同「白亜塔」欄)。
2	漢口から帰国した林芙美子が東京で報告講演。この時か? 高橋梅代さん所蔵新聞切り抜き「演芸一皿料理」欄によれば、林芙美子を囲む晩餐会が銀座で催された際、人に勧められて草人も出席。	7・20	夕刊「読売新聞」2面記事「ユ社の「貿易風」は珍人種展覧会」で、浦路がハリウッド映画「貿易風」の神戸の場面で一役演じることが報じられている。
5	午後8時半からJ.O.A.Kのラジオドラマ貯蓄奨励劇「ばかり帳」の主人公・山下鉄平役で出演。鉄平は、日清日露戦争に出征して片脚と両手の指5本を失った老人。愛国者で、欲しいものも、見たばかりで、思ったばかりで我慢し、節約したお金をばっかり袋へ入れて貯金している、という話(「朝日新聞」ラジオ欄)。※貯金局懸賞人選ラジオドラマ(高橋梅代さん所蔵新聞切り抜き)。	20	松竹大船「大陸の花嫁」封切り。上山草人出演(「キネマ旬報」677・690)。
12・25	新興キネマ東京の「喧嘩の春」封切り。草人が歯科医一木作之進役で出演。現代風俗メロドラマ。これ以後、上山草人・山口勇が主演する喜劇映画「喧嘩」シリーズが作られる(「新興キネマ」・「キネマ旬報」697・699)【五十歳を過ぎた草人は、辛うじてコミカルな老人役を新たな芸域として開拓しえたと言えよう】。	8・12	「テアトロ」6・7月合併号「座談会 新劇三十五年史を語る」に草人が参加。松竹大船「五人の兄妹」封切り。草人は清岡代議士役で出演(「キネマ旬報」688)。
		25	新興キネマ東京の「歌ふ乗合馬車」封切り。草人が馬車屋の松造爺さん役で出演。現代人情メロドラマ(「新興キネマ」)。
		25	「報知新聞」によれば、草人は新興キネマ大泉で沼波監督の「あきれた百万円」に応援出演し、骨接ぎ役を務め、松竹大船では、新人山本監督の「娘の問題」で按摩に扮している。平八(32)は、ソージン・ジュニアの愛称で、テクニカル・アドバイザーとして東洋映画に活躍。浦路は浦路化粧品販売の傍ら、映画にも出演。平八夫人も女優としてシルヴィア・シドニーの「お蝶夫人」以来銀幕に姿を見せている(高橋梅代さん所蔵スクラップ)。

※Internet Movie Database によれば、Sylvia Sydney は、1932年にMarion Gering監督の『Madame Butterfly』に蝶々さんの役で出演しているが、平八夫人（智恵）については不明。恐らくエキストラに過ぎなかったのだろう。

・24 松竹大船「娘の問題」封切り。草人が按摩役で出演（『キネマ旬報』690・694）
 【盲人役は、ハリウッド流の大袈裟な演技が合っているからだろう】。

・31 新興キネマ東京の「あきれた百万円」封切り。草人が接骨医幸田万造役で出演。
 コメデイ（『新興キネマ』・「キネマ旬報」689・693）。

11・6 （年代推定）草人・衣笠監督・水戸光子ら大船の俳優連有志と一緒に靖国神社秋の大祭に参拝（高橋梅代さん所蔵新聞切り抜き）。

◆昭和十五年◆（1940）五十七歳

1・24 松竹大船「春の旋風」に上山草人出演（『松竹七十年史』）。

2・9 博文館『芸談百話』に草人の「女優」さんや「い」探して歩いたあの頃」が再録される。

・28 新興キネマ東京「素晴らしき喧嘩」封切り。草人が蒲鉾屋の主人山本十兵衛役で主演（『新興キネマ』・「キネマ旬報」707・710）。

3・25 「都新聞」5面に草人が登場。

4・14 『The Japan Advertiser』に『Old Film Star Recalls Heyday Before Talkies』と題する記事が掲載される。ハリウッドでは最高の悪役として「東洋のロンチャニー」と呼ばれた草人だが、日本では、故ウィル・ロジャース風のおどけた老紳士役で知られている。草人はアメリカに演出術を学びに行ったが、日本の方が進んでいた

ので、研究の対象を映画に変えたと言う。草人によれば、サイレント映画は言葉の障壁がない分、トーキーより普遍的で芸術的に優れており、やがてはトーキーはテレビに取って代わられ、サイレントが復活するはずだ、と言う。

5 「家の光」（都市版）の「洋行珍談奇談明座談会」に草人が参加。

5・23 新興キネマ東京「娘たづねて三千里」封切り。草人は、水夫ホバイの源三役出演。現代人情メロドラマ（『新興キネマ』・「キネマ旬報」714・718・4月19日）
 『読売新聞』夕刊3面など）。

・25 午後2時から演劇博物館で第五回道遙祭。草人も参加した（『朝日新聞』26日夕刊）。

7・7 新興キネマ東京「花嫁の喧嘩」封切り。草人は、古道具屋の頑固親爺田村勘兵衛役で出演（『新興キネマ』）。

◆昭和十六年◆（1941）五十八歳

10・24 ※高橋梅代さん所蔵新聞切り抜きによれば、松竹大船から出演。

11・19 松竹大船「隣組のおばさん」封切り。上山草人出演（『松竹七十年史』）。

12・24 新興キネマ京都「国姓爺合戦」封切り。近松門左衛門原作の映画化。日中混血の和唐内を主人公に、日中戦争下、日本と中国を舞台に数々の大スペクタクルを展開する。草人は、大明17代の大王思烈役で出演（『新興キネマ』）【久々にエキゾチックな敵役の大役】。

松竹大船「人の影」封切り。上山草人出演（『松竹七十年史』）。

★この年、竹三郎は退院し、年初から神戸市輪田療養所事務員となって働き始める。竹三郎が浦路と平八に礼状を出した所、約三週間後に平八から返事が来た。しかし、太平洋戦争の開戦で、音信は途絶えた（三田照子『ハリウッドの怪優』）。

1・7 松竹大船「男への条件」封切り。上山草人出演（日本映画データベース）。

4・24 新興キネマ東京の「鮎と將軍」封切り。草人は退役將軍梶原喜十郎役で出演（『新興キネマ』・「映画旬報」12・14）。

7・7 支那事変四周年を記念する各種行事が開かれる中、午前10時半頃、松竹の草人・川崎弘子ら十数名が陸軍省恤兵部を訪れ、慰問袋百、献金一千円を納めたことが『朝日新聞』8日夕刊で報じられている。

8 新興キネマ東京の「飛び込んだ幸福」封切り。日中戦争下に報国債権の割増金に当選したお金をめぐる農村喜劇。草人は小さな牧場主である良作の父民造役で出演（『新興キネマ』）。

大日本映画協会編・刊『日本映画叢書』第4輯「映画演技学読本」の第十課「映画演技諸相」P.246～323を草人が担当執筆。末尾に（昭和十六年二月十一日）と脱稿日が書かれている。表情編・扮装編・発声編に分けて記述し、特に表情編では和洋の参考文献九冊を挙げていた。その他、草人が得意とした「偏奇的演技」の項を設けるなど、なかなかの力作と言って良い。なお、草人は、本書の末尾近くで、「現在、大船撮影所演技部に勤めている」と書いている。

月末、清水俊二がサロイヤンの小説「わが名はアラム」を六興商会出版部で翻訳出版。これは、平八の妻・智恵がサロイヤンと小学校時代の友達で、新刊の「わが名はアラム」を清水俊二に送って来たため（清水俊二「映画字幕五十年」）。

※サロイヤン（1908～81）はカリフォルニア州フレズノで少年時代を過ごした。

12・8 三田照子『ハリウッドの怪優』によれば、智恵はシアトル生まれの日系二世だった。
太平洋戦争開戦。

※この朝、草人は佐藤惣之助・藤波与兵衛と大須賀川支流の大戸の河辺りでタナゴを釣っていた(『佐藤惣之助覚え帖』所収・上山草人「うまのあつた釣友達」)。
※戦争が始まると、平八の妻・千恵【智恵】は離婚し、自分名義になっていた南ノルマンディー街の邸宅を売却し、全額を持って別の男と再婚した為、浦路は財産を失った(工藤美代子『聖林のモンゴル王子』)。

◆昭和十七年◆ (1942) 五十九歳

5・6? 上山草人「うまのあつた釣友達」(『佐藤惣之助覚え帖』所収)によれば、中島一竿の案内で、佐藤惣之助・大久保鯛生ほか四五人で福島県下河内へヤマメ釣りの旅に出かけた。

8 この日から、平八はCaliforniaのLa CrescentaにあるHillcrest sanitariumに入院(8・13 Ishigo, 宛書簡)

12 草人「うまのあつた釣友達」(『佐藤惣之助覚え帖』所収)によれば、赤坂の幸楽でわらだな会。草人・佐藤惣之助も出席。

15 佐藤惣之助死去。

16 上山草人「うまのあつた釣友達」(『佐藤惣之助覚え帖』所収)によれば、草人・佐藤惣之助の関係する或る禅寺中心のうやみや会という酒席が大森海岸の広間で開かれ、文士・僧侶・画家・俳優・茶人・華道の先生・陶業家・漫談家・落語家ら二〇名ほどが集まって、佐藤惣之助を待っていた所へ訃報が届き、草人はただちに雪ヶ谷の佐藤宅へ駆け付けた。

6・5 ミッドウエー海戦。

※徳川夢声『放送技術二十七年』によれば、この後、間もなくか、或いは翌年、放送局からアメリカの戦意を喪失させるようなラジオ放送をしたいという相談が徳川夢声ら放送局囑託の人々にあり、夢声の発案で、世界の何処にも存在しないデータメな言葉に英語を混ぜたものを放送して攪乱することになり、草人が選ばれて録音し、毎日、短波で放送した。続いて、夢声が放送した。

7・20 アリゾナ州ヒラに開設された強制収容所に、浦路も収容される(工藤美代子『聖林のモンゴル王子』)。

8・13 この日付けで、Hillcrest sanitarium, La Crescenta, California から 'Uraji Cosmetics' と印刷された書簡箋を用いて Estelle Ishigo に送られた Edo Mita (平八) の手紙が University of California, Los Angeles の Young Research Library の Collection 2010 Estelle Ishigo Papers の中にある。犬すら生かされないほど僅かな食事しか与えられない、母はまだテキサスに居る、などと書かれている (http://pr.us.gesis.ucla.edu/classroom/ishigoPlans/ishigoImages/1_emailletter_1.jpg)。

10・15 大映第一「豪傑系図」封切り。草人は合併により大映に移籍(日本映画データベース)。
29 大映京都「鞍馬天狗・黄金地獄」封切り。伊藤大輔監督。悪の親分ヤコブを演じて大活躍(『日本映画俳優全集・男優編』「映画旬報」63・65)。
※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、谷崎が見て、松五郎さんに、「草人は結構まだやれるね」と言った。

◆昭和十八年◆ (1943) 六十歳

3・4 大映第二「華やかなる幻想」封切り。上山草人出演(日本映画データベース)。
8・25 潮田武雄編『佐藤惣之助覚え帖』桜井書店刊。上山草人「うまのあつた釣友達」が収録される。

26 松竹下加茂「北方に鐘が鳴る」封切り。草人は伊達藤兵衛で出演(日本映画データベース)。
12・22 松竹京都「海賊旗吹っ飛ぶ」封切り。上山草人出演(日本映画データベース)。

◆昭和十九年◆ (1944) 六十一歳

5・11 大映京都「国際密輸団」封切り。伊藤大輔監督。草人は、莫隆福役で出演(田中純一郎『日本映画発達史』・日本映画データベース)。
10・6 千春旅館離れで、梅代誕生。これ以前に、草人は、伊東の西小学校のそばの千春旅館離れに最初の疎開をしていた(1997/3/18高橋梅代さんからの電話)。

12 竹三郎と照子結婚(3・22三田照子さんの細江宛私信)。

◆昭和二十年◆ (1945) 六十二歳

4頃? 上山草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、谷崎は伊東温泉プールで上山草人と邂逅。草人はプールの裏で軍服工場を始めたばかりだった。潤一郎も新聞記事を見てその事は知っていた。草人の疎開先である千春旅館別館にまで行ったが、

この日は木下李太郎の実家に用があり、後日の再会を約して別れた。が、その翌日、沼津・三島に焼夷弾が落ち、熱海・伊東も機銃掃射を受けたので、潤一郎は熱海を逃げ出した。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、軍服工場と言ってもブレハブで、すぐに破れてしまうような粗悪なスフで、戦死者に着せるための軍服を、パートのおばさん達に作らせていただけ。軍と結びついて儲けようとする人たちに、社長に祭り上げられただけで、儲けたのは別の人たち。

※谷崎は、辰野隆との対談「忘れ得ぬことども」（6）（『週刊朝日』・S.22・11・30）の中で、「草人は戦時中伊東の軍需会社の社長に祭り上げられた。今でも、伊東に居るだろう」と発言している。

※この後、草人は伊東市内に家を買った。当時の住所は伊東市岡区湯田町798。今は家も何もなくなっている。瓶山の麓。ここで養鶏所をやった。伊東市のメイストリート猪戸通りに今もある天城診療所の医師・佐藤清一（号・十雨、肝臓先生）と親しかった。佐藤氏は、尾崎士郎・坂口安吾とも親しく、遺族がそれらの資料を展示している（中央町13-31）。草人が絵を描き、谷崎が字を書いた掛け軸などが蜜柑箱に幾つもあったが、伊東市鎌田の柔道家・太田某に預けたきりになっっている（1997・3・18高橋梅代さんのお電話）。

※佐藤清一については、坂口安吾に小説『肝臓先生』があり、それを映画化した今村昌平監督の『カンゾー先生』（1998）もある。

※S.25・10「ポトリニユーズ」（鶏の研究社発行『The Poultry News』）家禽ニユーズ）記事によれば、草人の養鶏は、畜生活で空になった籠の抽出を育雛記に利用して三十羽育雛に成功したのが始まり。

11・1 アリゾナ州ヒラの強制収容所が閉鎖される（『南加州日本人七十年史』）。

※浦路はロスに帰り、白人の家に住み込んで働いている内、カーペットに隠れて腰の骨を折り、入院した。その後、1045 So. Inolo St. Los Angeles, Calif. の高田デツキ（高田友行？）のガレージの二階を借りて一人住まいをしていた（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

◆昭和二十二年◆（1947）六十四歳

1・1 「羅府新報」に浦路の『ヒラの新劇』掲載（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

5・6 東宝映画「大江戸の鬼」封切り（日本映画データベース）。

※草人は「大江戸の鬼」に能面師役で戦後初めて出演（『日本映画俳優全集・男

優編）。

11・30 ※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、能面を被って人を斬る役。午後10時半、脳溢血で山川浦路死去（12・2「羅府新報」浦路死亡通知）。享年六十三歳。

・31 「羅府新報」に浦路の死亡記事掲載（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

12・2 「羅府新報」に浦路の死亡通知掲載（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

・4 午後7時からの浦路の通夜に、約百五十人の知友が集まる。平八は切開手術のため入院中で出席できず（工藤美代子『聖林のモンゴル王子』）。

・5 午後1時半からロサンゼルス西本願寺別院で浦路の葬儀（12・2「羅府新報」浦路死亡通知）。

・7 十一月八日に浦路が送った手紙と小包が竹三郎のもとに届く（三田照子『ハリウッドの怪優』）。

◆昭和二十三年◆（1948）六十五歳

2 熱海文化祭の催しとして、熱海稲門会主催による「熱海ページェント」（T10坪内道遙作）が海蔵寺境内内で上演された際、加藤精一・道子、夏川静江らと共に、上山草人も出演し、NHKで生放送された。

◆昭和二十四年◆（1949）六十六歳

11・30 浦路の三周忌に青山墓地で墓前祭が営まれ、午後から近くのホテルで追悼座談会が行われた。出席者は上山草人・松井翠声・小沢得二・三村伸太郎・牛原虚彦・土岐善磨・石井柏亭（『朝日新聞』S.24・12・2）。

◆昭和二十五年◆（1950）六十七歳

★この頃、平八は、もと日本人共産党員・北林ジョージ夫妻の証言で、「好もしからざる移民」として、ウォルター・マツカラン法下に捕らえられて投獄され、送還命令を受けるが、それに対して、外国生まれ労働者擁護委員会の活動家となる（『解放のいしずえ（新版）』）。

初夏

草人の勤めで、夫人直子と松五郎・梅代が、【昭和十一年五月の】絶交事件以来、十五年振りに、熱海の谷崎邸を訪問。以後、潤一郎と草人の関係は旧に復する（三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」ただし絶交は昭和10年とする）。

※「玄治店」を梅代がやって見せるのを谷崎はニコニコしながら見ていた。そば

に塗々園があった(1997・3・18高橋梅代さんのお電話)。

7・8 秀映社「龍眼島の秘密」全三篇封切り。草人は丹那産業社長・丹那徹役で出演(日本映画データベース)。

9・5 「ポトリーニューズ」記者が草人を訪問。同じく伊東市に住む敵役の市川文治【映画俳優】・落語家林屋染語楼【三代目林家染語楼昭和50年1月18日58歳で没】と一緒に記念撮影(10・10「ポトリーニューズ」)。

10・10 「ポトリーニューズ」15号表紙に、「名優と養鶏」と題して、上山草人と梅代の写真掲載。この頃、芸能人で草人を中心とするグループは、大日向伝・江川宇礼雄・高田稔など(高橋梅代氏所蔵)。

・28 秀映社「東京十夜」封切り。上山草人出演(日本映画データベース)。

◆昭和二十六年◆(1951)六十八歳

★(イ)の年、平八はEd Sojin Jr.名で、ハリウッド映画「I Was an American Spy」にJapanese Soldierの端役で出演した(Internet Movie DataBase)。

1・? 谷崎は上山草人一家を招き、志賀直哉から貰った山鯨(猪)鍋を御馳走する(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)。

★上山草人「谷崎潤一郎との四十年」によれば、桜の花吹雪が降りしきる頃、草人に久しぶりで一緒に夕食でもやろうと電話し、雪後庵に迎える。潤一郎は広袖にちゃんくという仕事着。松子は十日ほど前から京都に帰っていた。潤一郎は明日から東京へ行き、その俣、京都へ帰り、熱海には五月半ばまで帰らないとの事。草人は「文芸春秋」から谷崎の昔の話を書けと言われて、忘れていた事を訊きに来たと言っ。

2 「文芸春秋」臨時増刊「人物読本」に弓館小鰐「仙台弁の名優」掲載(弓館小鰐「ニヤニヤ交友帖」所収)。草人は最近、「サン写真新聞」が募集したミスター・ニッポンの選者になっていた。

4・25 「文芸春秋」臨時増刊「第2人物読本」に上山草人「谷崎潤一郎との四十年」掲載。

※福田蘭童「谷崎さんと生麩」に、「伊東で養鶏屋をやっている草人がヒネた鶏をぶら下げて、久しぶりでやってきた。草人はすっかり呆けて、記憶が薄らいでいるので、潤一郎が代わりに書いたか、大いに手助けしたかであるらしい。」と出る。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、草人が口述し、松五郎さんが筆記し

た。29? 仙台の人(?)天江富弥の娘幸子と安田恒人の結婚式に「天長のお祝ひも一つ鶴」と書いて亀の絵を描いた色紙(?)を贈る。他に土井晚翠・有島生馬・本山

获舟・平山蘆江・岡本文弥・浜本浩ら(結婚祝賀の小冊子『恒幸不尽』)。

※天江富弥(1899-1984)は仙台の童謡作家・都々逸作家・こけし蒐集家。昭和21年、童謡作家・鈴木碧と「仙台児童クラブ」を結成、童謡専門誌「おてんとさん」を創刊した。酒道左千家宗家を名乗り、昭和25年頃、仙台市内に開店した元祖「炬ばた」のおっちゃんとしても親しまれた。

「文芸春秋」に上山草人「犬養健のこと」掲載。

夏の午後、福田蘭童が熱海来宮の谷崎邸を訪問する。潤一郎が蘭童の雀友・米山讓治に西園寺公望の軸を渡し、米山の友人である西園寺公一氏に真贋を鑑定して貰ってくれと頼み、鑑定の結果、本物と判ったので、蘭童が届けに来た。谷崎は「近くクランクインする映画『源氏物語』で、記憶力の衰えている草人のために、セリフを覚える必要のない坊主の役を振って、生活の一助にしてやろうと思っている」と語った(福田蘭童「谷崎さんと生麩」)。

夏 岡田時彦の娘・田中鞠子(18歳)が、映画界入りし、異例の大抜擢で八月十七日封切りの『舞姫』に出演することになり、芸名を付けて貰いに熱海の谷崎邸を初めて訪ねた。夏だったので谷崎は腕を見て、「腕が時彦に似ている。岡田時彦も十八歳で映画に入った。時彦は早く亡くなったから、パパの分も頑張つてね」と言い、「岡田茉莉子」と名付けた。茉莉子は、「私は父のような天才じゃないから長生きします」と答えた(1997/1/5読売テレビ午前9時55分-10時55分「波瀾万丈」に岡田茉莉子が出演して語った)。

※S38・1・1NHKラジオ「新春放談」志賀直哉と岡田茉莉子の対談では、春とする。

※三田松五郎さんによれば、岡田茉莉子が芸名を付けて貰いに来た日には、たまに三田直子さんと松五郎さんが来合わせていた。

草人が映画「源氏物語」出演のために来京した時、夜、二人で京極を散歩し、ストリップ・ショウを見て帰った事があった(和田利政「上山草人の思い出」)。

大映十周年記念映画「源氏物語」封切り。草人は僧都役で出演(日本映画データベース)。

※谷崎潤一郎が、草人を出演させるように尽力した(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」)出演できたのは、昭和二十六年一月から、大映京都撮影所長に谷

「崎の旧知である川口松太郎が就任したせいもあるか?」。

◆昭和二十七年◆ (1952) 六十九歳

★高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、昭和二十七八年頃、草人会というものを月に一度くらいやっていた。西小学校の校長や天城診療所の佐藤先生、柔道家太田某、たまには尾崎士郎も来た。福田蘭童は、伊東の家にしょっちゅう来ていた。

1・7 熱海より城戸四郎宛谷崎書簡（平成8年初春 八勝堂古書目録9号）《今日上山草人の細君草人の代理として年始に参り昨年主人草人事大兄の御芳情に浴し種々御親切なる御取計らひに接し候御趣にて大層感激致し居り候》。

3・1 帝国劇場で「浮かれ源氏」上演。『鶯姫』のパロディー（橋弘一郎『谷崎潤一郎先生著書総目録』『帝劇の五十年』）。

4・17 ※草人が出演できるように尽力する（三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」）。※草人を使って貰うことになって、帝劇の事務所であったのが、谷崎が秦豊吉に会った最後（谷崎『秦豊吉君のこと』）。

5 東宝の「霧笛」封切り。上山草人出演（田中純一郎『日本映画発達史』・「日本映画俳優全集・男優編」）。

5・8 東映京都「恋風五十三次」封切り。草人は小田原本陣の老主人役で出演（日本映画データベース）。

12 「りべらる」8巻11号に上山草人・横尾泥海男の対談「馬敬礼奇譚」掲載。

◆昭和二十八年◆ (1953) 七十歳

4・30 春歩堂から天城診療所の佐藤十雨（清一）著『肝臓先生』初版発行。

※草人が序文を書き、扉に草人の句「頼の鼻うごめかす梅が香ぞ」と、献辞「佐藤十雨／上山草人／謹呈／谷崎潤一郎先生」を記した一本が谷崎に献呈されており、現在、芦屋市谷崎潤一郎記念館に保存されている。

◆昭和二十九年◆ (1954) 七十一歳

★この年、平八（Edo Mita）は、ハリウッド映画「Prisoner of War」に Red Doctor, "Hell and High Water" に Taxi Driver S' ぐすれも端役で出演（Internet Movie Database）。

1・9 滝村プロダクション制作・東宝配給映画「第二の接吻」封切り。草人は別荘番伍

4・4

作役で出演（日本映画データベース）。
※プロデューサーの滝村和男は浦路の母方の従弟。
川口松太郎宛谷崎書簡（『日本近代文学館』第146号）。今度大映にて『春琴抄』映画化に際し少女の俳優を募集するとかの噂、草人の娘梅代（十歳）御願に参上、宜敷。

5 高橋梅代さんのお電話（1952/3/18）によれば、谷崎が出演を勧め、推薦文をくれた。その御蔭で、特別扱いで面接を受けた。しかし、京マチ子が目を瞑った顔に似ていないという理由で、丁重に断られた。

5 黒沢明監督の「七人の侍」封切り。草人は琵琶法師役で出演（田中純一郎『日本映画発達史』・「日本映画俳優全集・男優編」）。

7・28 草人は伊東から世田谷区東玉川に転居（「サンデー毎日」S29・8・8）。夜遅く、腸閉塞と肝臓炎のため、上山草人死去。享年七十一歳。

※谷崎は、夜中の2時頃、直子夫人からの電話で知らされる（三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」）。

※7月30日の「毎日新聞」夕刊（4）面追悼記事に、《熱海伊豆山に滞留中の谷崎氏は深夜も長距離電話をかけるなど親身になって案じていた》と報じられている。

※谷崎『上山草人のこと』によれば、東京から新聞記者の一人や二人は馳せ付けて来て、故人の逸話を尋ねる位の事はあるかも知れないと、心待ちにさえていたが、誰も来なかった。予想に反して、新聞にもはなはだお粗末な報道が載っただけだった。戦後の人心の慌ただしき、世相の薄情を恨んだ。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、上山草人関係の資料は、演劇博物館に演劇関係のもの・「バグタッドの盗賊」をフランスの画家が描いた大きな絵・変装用入れ歯など、川喜多記念映画文化財団に映画関係のものを寄贈、他は橋弘一郎『映画ファン』「映画の友」を発行していた映画世界社社長。谷崎の著書を蒐集し、『谷崎潤一郎先生著書総目録』も刊行した）に買い取って貰った。

「朝日新聞」夕刊三面に上山草人死亡記事。早川雪洲の談話掲載。
「毎日新聞」夕刊四面に上山草人死亡記事。早川雪洲の談話掲載。

午後一時から、世田谷区東玉川七五の自宅で上山草人告別式（「朝日新聞」7・29）

※新聞各紙の死亡記事は、谷崎が憤慨したほど小さな扱いだだったが、葬儀には文壇・演劇・映画界の知友が詰めかけ、盛大だった（工藤美代子『聖林のモンゴル

8・30

29

王子)。

※草人の葬儀に松子が列席(三田直子「谷崎潤一郎先生と松子夫人」。

「京都新聞」に柴田勝衛が追悼記事を書いた。

9・26 稲垣浩監督の東宝映画「宮本武蔵」封切り。端役の老人で出演したのが、上山草人の遺作となった(田中純一郎「日本映画発達史」『日本映画俳優全集 男優編』)。

10 谷崎『老俳優の思ひ出』口述筆記のために、中央公論社の小滝樫が、京都の潺湲亭(谷崎邸)の茶室に数日間滞在した(「伊吹和子『われよりほかに』」。

11 谷崎が上山草人の追悼文『老俳優の思ひ出』を「別冊文芸春秋」に掲載。のち『上山草人のこと』と改題。この中で谷崎は、「世間の薄情を恨んでいたので、文芸春秋から依頼があった時、これで草人も幾らか浮かばれるだろう、と嬉しかった」と書いている。

◆昭和三十一年◆(1956)

★この年か? 梅代が小学校6年から中学校1年の頃、三田直子は渋谷の道玄坂の上に飲み屋「草人の家」を出した。その費用百万円以上【当時の大卒初任給は八千円足らず】を、谷崎と川口松太郎が出した。店の名は、谷崎が考えた「草人の家」「草人酒寮」の内から、三田直子を選んだ。女優の卵を二人ぐらい使っていた。新国劇の上田吉次郎や青江舜二郎・紀伊国屋書店主(田辺茂一)がよく来た。しかし、一年位で潰れた(1997/3/18高橋梅代さんからの電話)。

6・10 平八(Edo Mita)は、この日放送の“Alfred Hitchcock Presents”の episode 1. 37 “Decoy”に“Mr. Sashakawa”役で出演 (Internet Movie Database)。

◆昭和三十三年◆(1958)

1 「主婦之友」に三田直子(上山草人未亡人)の『谷崎潤一郎先生と松子夫人』掲載。

※谷崎が書くように勧め、文章も殆ど谷崎が書いた(1997/3/18高橋梅代さんからの電話)。

◆昭和三十四年◆(1959)

★この年、平八(Edo Mita)はハリウッド映画“The Crimson Kimono”に Gardner “Tokyo After Dark”に Kojima と同じく、いずれも端役で出演 (Internet Movie Database)。

DataBase)。

1? 市川崑監督が『鍵』の映画化を熱望していたので、この年の初めに淀川長治・市川崑・藤井浩明(大映の企画担当者)橋弘一郎(映画世界社社長)と一緒に谷崎邸を訪問、許可を貰った。

※市川崑監督が谷崎邸を訪れた際、たまたま三田松五郎さんが居合わせたと言

11・25 平八(Edo Mita)は、この日放送の“Hawaiian Eye” episode 1. 08 “Three Tickets to Lani”に無名の日本人役で出演 (http://www.geocities.com/TelevisionCity/Stage/2950/lepg/HawaiianEye.htm)。

◆昭和三十五年◆(1960)

★この年、平八の送還命令は、証拠不十分で却下される(『解放のいしずえ(新版)』)。

1 「学鑑」に谷崎『明治時代の日本橋』掲載。上山草人に言及。

13 平八(Edo Mita)は、この日放送の“Hawaiian Eye” episode 1. 15 “The Kamehameha Cloak”に“Yamato”役で出演 (Internet Movie Database)。

◆昭和三十六年◆(1961)

3・15 平八(Edo Mita)は、この日放送の“Hawaiian Eye” episode 2. 27 “Her Father’s House”に“Saito”役で出演 (Internet Movie Database)。

◆昭和三十八年◆(1963)

1・13 最後の妻へスターに看取られて、平八死去(工藤美代子『聖林のモンゴル王子』【享年五十六歳】)。

※高橋梅代さん・三田松五郎さんによれば、路子と平八は、左翼活動を終生続け、遺骨は左翼の無名戦士の墓【東京・青山の解放運動無名戦士墓】に分骨されている。

◆昭和四十年◆(1965)

7・30 午前7時半、谷崎潤一郎は、神奈川県湯河原町の自宅で急性心臓衰弱のため死去。享年八十歳。

※以後も、梅代は松子夫人が亡くなるまで交際が続き、例えば、梅代の結婚式に

も松子が列席した。梅代は谷崎の二度目の妻だった丁未子とも付き合いがあった（2・25三田照子さんの細江宛私信）。

【付記】

伊庭孝に、近代劇協会草創期のことを回想した「ステージは廻る」（『新青年』S9/10、12）という文章があるのを私は見落としており、この年譜稿に入れられなかった。新劇草創期を知る上で興味深い資料なので、一読をお勧めして置く。

また、乾信一郎の『『新青年』の頃』（早川書房）に、この連載を見た草人が激怒し、「新青年」編集部へ電話を掛け、謝りに来た乾信一郎を連れて、伊庭孝の家まで怒鳴り込みに行った時のエピソードが紹介されていることも、付け加えて置く。

なお、芥川龍之介の『菌車』「四 まだ？」に、《亜米利加の映画俳優になったK君の夫人は第二の僕を帝劇の廊下に見かけてゐた。（僕は突然K君の夫人に「先達はつい御挨拶もしませんで」と言はれ、当惑したことを覚えてゐる。》と出る《K君》が上山草人であり、その夫人が山川浦路であることは、既に指摘されている通りである。芥川と草人・浦路を結び付けたのは谷崎だと推定できるので、『菌車』に書かれたことが事実あったとすれば、その時期は、谷崎と芥川が親しくなった大正六年六月よりは後で、草人夫妻が揃って渡米する大正八年二月よりは以前のはずである（草人夫妻は、渡米後、芥川の自殺まで、一度も帰国していないのだから）。草人は、大正四年の『桜の園』以後、昭和六年まで、帝劇に出演することはなかったため、浦路は帝劇に何か別のものを見に出掛けた際に、芥川に似た人物を見掛けて、後で芥川に挨拶したのであろう。

A Short Chronological History of the Life of Sojin Kamiyama; His Friendship with Junichiro Tanizaki

HOSOE Hikaru

Abstract: Sojin Kamiyama, one of the key figures in the creation of the modern Japanese theater, was a friend of Junichiro Tanizaki throughout his lifetime.

He is known as one of the few Japanese actors who performed in Hollywood in silent films in the 1920s. However, his life has not been sufficiently studied; nor his friendship with Junichiro Tanizaki fully investigated. This paper presents his personal history based on various data, information and interviews with members of his family.